

無量壽

平成19年8月1日
浄土真宗 本願寺派
林徳寺 発行
025 - 276 - 3456

浄土真宗物語⑩

親鸞聖人の奥様、恵信尼様えしんにがどのようなお方であったかは、いろいろな説があつてよく分かっていません。一般には、浄土真宗物語②（平成15年8月

発行の無量壽に掲載）でふれたように、越後の豪族であつた三善みよし為教ためりの娘であると考えられています。いずれにしても、この当時の女性で文章を書くことができたこと、毎日日記をつけていた

ことなどから、相当に高い教養を持った女性でおられたことは間違いありません。大正10年（1921）西本願寺の宝物庫から恵信尼様の書状十通が発見されました。これは恵信尼様が越後から京都に住む末娘の覚信尼かくしんに様に宛てたお手紙で、前号に引用したものはそ



お手紙をお書きになる恵信尼様（恵信尼伝絵より）

の一部です。この十通のお手紙の内容から、それまで不明であつた親鸞聖人の御生涯に関することがいろいろと分かるようになったのです。

親鸞聖人が亡くなられた後、

恵信尼様もまもなく現在の新潟

県上越市板倉区で亡くなられました。今、恵信尼様のびやうど廟所

（お墓）が本願寺国府別院こくふの飛び地

境内地として整備されています。

この恵信尼様のお墓と考えられる

五輪の石塔は、地元では長く偉い尼

僧の墓であると言ひ伝えられていま

したが、誰のものであるかは不明で

した。それを浄土真宗本願寺派じょう浄

覚寺かくじ（林徳寺坊守の実家）の前々住

職、藤田ふじた撰受師（坊守の祖父）が富

山大学の教授などと共同で研究され

て、昭和31年にほぼ間違いなく恵信

尼様のお墓であると認定されたので

す。その決め手となつたのは、恵信

尼様がお手紙の中に、『生きてい



恵信尼様廟所

る時に、卒塔婆を建ててみたいものと、五重の石塔を高さ七尺に詠えましたところ、塔師も造ると申しますので、石ができて来次第建ててみたいと思います』と書いておられる内容と、この石塔が一致したことでした。

現在上越市板倉区米増よねまに、写真のようにきれいに整備された廟所があります。さらにその隣には上越市立の「多しの里記念館」があり、ここでは西本願寺や高田専修寺せんじゆじ（真宗高田派本山）などが持つ、普段は公開されていない国宝級の資料の複製などを見ることが出来ます。



多しの里記念館

このほか上越市内には親鸞聖人に関する多くの史跡等がありますので、機会がありましたら、観光をかねてぜひ参拝・見学をしていただきたいと思います。

浄土真宗の作法・心得(シリーズマ)

行事 冬の(二)

仏教全般あるいは浄土真宗の教えに基づく行事がいくつかあります。今回はその中でも、お寺で行われる行事を紹介します。

〈お寺での行事〉

○**元旦会**…新しい年を迎えるにあたって本尊様

(阿弥陀仏)の前で両手を合わせ、いのちをいただいて生かされている我が身のしあわせを喜び、こころ新たに一年の生活を始めるための行事です。

林徳寺においては、参拝くださった方から大晦日の午後十一～三〇頃より除夜の鐘を撞いていただき、続けて、元旦の午前一時過ぎ頃から皆様と共に本堂でお勤めをいたします。



本堂での参拝風景



除夜の鐘

○**永代経法要**…亡くなられた方のご命日に、永

代に渡って読経して聴聞するために懇志を永代経懇志といえます。この懇志を上納くださった方をお招きしてつとめる法要が永代経法要です。林徳寺では毎年九月の秋彼岸中日に、彼岸会法要をかねてつとめています。

○**報恩講法要**…宗祖親鸞聖人のご命日、一月十

六日(旧暦では十一月二十八日)にあたって、聖人のご苦勞をお忍びし、そのご恩に感謝をしながら、より一層信心を深めさせていただく為の行事です。

本山、西本願寺では一月九日から十六日までの一週間「御正忌報恩講」をつとめます。林徳寺では十一月二十六日から二十八日までの三日間つとめています。

これを本山に先立ってつとめることから「御取り越し報恩講」とも言います。

○そのほか…そのほかには九月一日につとめる**法中講**、三月から十月の二十八日につとめる**二十八日講**などの行事があります。

日本語になった仏教の言葉 ⑩

《愛・慈悲》

仏教では本来「愛」という言葉は、あらゆるものに対する激しい欲望を表す言葉として用いられ、日本に伝えられました。「愛欲」や「渴愛」も同じ意味です。そもそも「愛」と訳されたサンスクリット語の元々の意味は「のどの渇き」なのです。

一方「慈悲」とは、仏が衆生に樂を与え、苦を取り除こうという心を表しています。「慈」は他者に安樂を与えようという慈しみのこころ、「悲」とは他者の苦しみへの同情と、それを救いたいという心を表しています。

ですから、仏の心や働きを表す言葉としては、「愛」ではなく「慈悲」を用いなければなりません。

「父母兄弟、神への愛」、「男女が相手を思い合う意味の愛する」という言葉が生まれたのは、明治になってキリスト教の布教が許され、LOVEの訳語として「愛」が使われるようになってからののです。

『知ってびっくり仏教由来の日本語』草木舎より